



FKC

The

FURANO KOTOBUKI COLLEGE

Times

START!
リズムダンス

富良野市教育委員会学びのまち推進課学びのまち推進係
電話 0167-39-2318 文責：上 用 眞一郎

歌って♪踊って♪健康って、楽しい！！

今年のゴールデンウィーク前半はあいにくの寒空、29日の祝日は、帯広では朝から雪が降っていました。麓郷もとても寒く、朝から薪ストーブを焚いてこうしてのんびりとことぶき通信を書いています。

麓郷の我が家では、今、ブローディアが満開、そしてクリスマスローズもこの寒さで元気いっぱい咲いています…そう思っていると雨が雪に変わりました。積もるとは思いませんが、風も強くなり、荒れてきました。



雪の中から
まず顔を出し
たのがスノー
ドロップとク

リスマスローズです。ブルーのブロー
ディア、ブルーのムスカリなどブルー
一色！これからが楽しみです！！

さて、今回は入学式後、第一回目の学習日でした。今年度から当番制が復活しましたが、本科3年生の皆さんはしっかりと9時前には登校して、テーブルの椅子、資料の配付などの準備をしてくれました。こうして、会議室にテーブルを21脚並べ、皆さん41名がそろそろと教室が一杯です。



9時30分、朝の集いが始まり校歌を斉唱、旧文化会館ではラジオ体操をしていましたが、ちょっと狭いので、ラジオ体操に

に代わって簡単にできる体操を只今検討中です。

令和7年度の新しい取り組みとして、「踊り」に代わり「リズムダンス」が始まります。クラブ学習、同好会活動一覧表に「コーラス」と「リズムダンス」の名簿一覧表も配布しましたので、歌って健康！踊って健康！楽しいひと時を過ごしましょう。

クラブ学習も始まりました！

今回は第1回目のクラブ学習。新入生も加わり各クラブとも活気に溢れていました。

ふれあいセンターでの陶芸クラブ、後藤さん、菅田さん、平沢さんの3名が加わり、8名と高橋先生、ボランティアで杉本先生も指導に来てくれました。



陶芸の魅力は何ととっても、「偶然の美」。窯から出て来る時のワクワク

感にあると思います。童心に戻り粘土と戯れ、心を落ち着かせ集中する…食卓に彩りと心が加わります…

書道クラブは新入生の山部校央戸さんが加わり14名です。

最初の時間は、大橋先生と課題設定の検討からスタートです。

4月27日の道新に北海道書道展の大賞に札幌市の久保田さんが選ばれたという記事が掲



載されていきました。受賞作百人一首より6首…かな書、はかなく細い線、優雅で繊細な線の流れ上品で濃淡のバランスが見る人の目を引くという。

彼女曰く「没頭できる時間があるということは、元気である力になります」…もくもくと筆を走らせる今さん、「素晴らしい！」と大橋先生から高い評価を受けた伊藤さん、書は書いた字だけでなく余白も大事だといわれます。きっと何事も調和とかバランスが大事だということです。



切り絵クラブには新入生の梶川さんが加わり8名となりました。

講師の小川先生から「図書館祭り」についての参加についてのお誘いがありました。年間学習計画にはありませんが、クラブ全体として前向きに検討したいと思っています。



茶道クラブには新入生と菊地さんとお仕事で休まれましたが佐藤さんの2名が加わり7名となりました。事務局の會田さんと私も「誠に結構なお点前でございました」

今年度は、他のクラブとのコミュニケーションを図るための「お茶会」を開いていただけることになりました。初めての取組となりますのでとても楽しみです。

切り絵クラブの紹介ですが、新入生の室崎さんと両瀬さんが加わり6名となりました。話に夢中になりすぎて写真がない！！次回のお楽しみに、今年もプロ級の作品を目指します。

4月30日（水）本日の日程

諸連絡

- ◎ 自治会費前期分納入日（3,500円）

朝のうちに、自治会会計の大学院1年高瀬優子さんまで納入して下さい。

- ◎ 5/28（水）の春の研修旅行の参加集約（参加の有無一覧表に記入）

学年ごとに出席簿とことぶき通信3号と一緒に一覧表を配布しています。もし、欠席者がいましたら、学年ごとに連絡をとって確認してください。

なお、参加される方は、次回5月14日（水）がチケット代金（2,500円）を集めます。

目 程

9:00 当番学年集合（本科4年生）

9:30 朝の集い（校歌斉唱、ラジオ体操、諸連絡）

10:00 文学の散歩道 I（会議室1）年間計画についての説明

- ・これからの文学散歩道についての概要説明
- ・朗読視聴

12:00 // 終了

昼食・休憩

- ・コーラス会場づくり
- ・2階多目的ホールを使用します。移動を含めて午後1時には全員集合してください。（新しい名簿を全員に配布しています）

13:00 「コーラス」（会議室1）、リズムダンス（2F 多目的ホール）

- ・講師の紹介

14:00 // 終了

14:15 学年（課題）別研究 I（教室を割り振ります）

- ・本科1年生は、隣の会議室2とします。
- ・本科3年生は、その隣の会議室3とします。
- ・本科4年生は、現在の茶道クラブ（交流室）とします。
- ・大学院1年生、研究生については、交流室を、第2研究生につきましては、会議室1を利用してください。必要に応じて研修室も使用可能ですので事務局まで連絡をしてください。

- ◎ 1回目の話し合いとなります。事務局は新本科1年生と第2研究生に行きます。

15:00 帰りの集い 後片づけ

自治会役員会（会長・副会長・総務・会計・書記）

次回、5月14日(水)の日程

◎ 5/28(水)の春の研修、チケット代納入日 (2,500円)

午前：俳句講座

久しぶりの俳句講座です。今年度も年間5回を計画しています。

北海道新聞に掲載、市の広報誌ふらのにも掲載される予定です。

5・7・5の17文字に思いを込めて!!

午後：学年(課題)別研究2

これからの取組について検討する時間を設定しました。これから新たなテーマに取り組む学年の皆さんにお願いです。

◎ アニュアルプランの6ページ課題9についても是非検討してください。

◎ 特に、第2研究生の皆さんは、学年の枠を超えたテーマでの取り組みを是非検討してください。



ティー・タイムコーナー



毎日、愛読書のように新聞に目を通す妻が、先日見落としていたと言って差し出した「いずみ」というコーナーをあらためて紹介します。人生100年時代「いずみと戦争、-昭和の投稿から-」、4月13日(日曜)の掲載です。戦後80年、まだ80年しか経っていないと思いつつ、70年を迎えるこの「いずみ」、女性だけの投稿欄の意味についても考えました。

一人の記憶が文字となり今日の新聞を開いた人たちの心を熱くする…

父を知らぬ息子に平和託す

「はたちになつたむすこへ」
(常野トキさん・商業、63年8月10日掲載)は筆者が、成人を迎え東京で働く息子に贈るメッセージ。息子が毎朝、父が愛用していたカミソリでヒゲをそっているだろうと想像します。

炎熱の灯火管制下に、うぶごえを上げたおまえの出生を、だれよりも喜んでくれたおまえの父に、むすこの将来にかけた虹色の夢も、わずか3カ月で断ち切れ、戦地へかり出されてついに帰らぬ父に、おまえはたちになつた喜びを告げたことだろう。生まれてすぐに出征し、その

を熱くします。

のまま戦死してしまった父。息子には、父の記憶がまつたくありませんが、筆者は、息子が亡き夫の生き写しのように育っていると感じています。それは顔だけでなく、正義を愛する心、強い意志、寛大な性格までも。

父が、おまえたちに別れを告げたあの悲痛な声を、二度とおまえたちの口から聞きたくはない。娘たちにも、生木をさかされるような悲しみは味わわせたくない。

自分自身や家族のためだけでなく、世界の人々の幸せのためにも、戦争のない世の中になるよう力を尽くしてほしい。筆者は、成人した息子にそんな願いを託します。
(太字部分は引用)

13 くらし

2025年(令和7年)4月13日(日曜日)

人生100年時代

今回は、父を戦争で失い、懸命に生き抜く子の姿を描いた作品を紹介しよう。

終戦後、極度の食糧不足となり、「かつぎ屋」という商売が出てきました。コメなどがまだ配給制で十分な量が調達できない中、地方などからの「ヤミ物資」をひそかに運んで売った人たちがいます。

「ある少年の元氣な姿」(能登せつさん・主婦、1955年3月21日掲載)は、かつぎ屋の子どものお話です。

「おぼさん、お米持ってきました。遅くなってすみません」。見ると、背中に風呂敷に包んだ米袋を背負いながら、顔を真っ赤にしている12、3歳の少年が立っている。聞くとなりに米を持ってくるように頼んでおいた、あるかつぎ米を熱くします。

「おぼさん、お米持ってきました。遅くなってすみません」。見ると、背中に風呂敷に包んだ米袋を背負いながら、顔を真っ赤にしている12、3歳の少年が立っている。聞くとなりに米を持ってくるように頼んでおいた、あるかつぎ米を熱くします。

「おぼさん、お米持ってきました。遅くなってすみません」。見ると、背中に風呂敷に包んだ米袋を背負いながら、顔を真っ赤にしている12、3歳の少年が立っている。聞くとなりに米を持ってくるように頼んでおいた、あるかつぎ米を熱くします。

ところが、食卓の前に座った少年が、はしを取る前に静かに頭をたれ折るようにつぶやいた。「お父さんのおかげ」。それから嘔れ嘔れした顔でご飯を食べ始めた。

少年は母とともに、毎日食卓で「お父さんのおかげ」と亡き父に感謝し、苦しい日々を生き抜こうとしているのだろう。筆者はそう想像し、胸

屋の子どもで、いつも来るお母さんが病気のため代わりに一斗の米を持ってきたのだという。

少年は小学6年生。父は戦死し、母の代わりに運んできたコメの重さは約15kgです。雨や雪で足元が滑る中、学校が終わってから懸命に働く少年に、筆者は、せめても夕飯を勧めます。

亡き父思い懸命に働く少年

女性投稿欄「いずみ」が始まった1955年から64年まで、10年の間に掲載された作品から、戦争に関する記述のある作品を選び、毎週日曜に紹